決算審査特別委員会視察報告書

【平成３０年１０月１５日】

視　察　日　平成３０年１０月１１日（木）

視 察 地 及 び 班 編 成

第 １ 班

・視察地　小石川福祉作業所／ちいさいおうち小石川
・班　長　田中 香澄 委員
・班　員　白石 英行 委員、品田 ひでこ 委員、関川 けさ子 委員、高山 泰三 委員、
浅田 保雄 委員、名取 顕一 議長

第 ２ 班

・視察地　にじのいるか保育園千石第二／ふる里学舎本郷
・班　長　山田 ひろこ 委員
・班　員　若井 宣一 委員長、上田 ゆきこ 副委員長、田中 としかね 委員、
前田 くにひろ 委員、国府田 久美子 委員、田中 和子 副議長

第 ３ 班

・視察地　江戸川公園内公衆便所・江戸川公園便所／介護老人保健施設　音羽えびすの郷
・班　長　佐藤 ごういち 委員
・班　員　森 守 委員、松下 純子 委員、島元 雅夫 委員、岡崎 義顕 委員、
山本 一仁 委員、藤原 美佐子 委員

視 察 報 告 内 容

第 １ 班

１　小石川福祉作業所

当該施設は老朽化に伴い、躯体をそのままにした大規模施設改修を行った(約３億 3,000 万円)。６月 23 日から３月 15 日までの約９か月間の工事期間で、内容は、内装の床、建具の改修や電気設備、トイレのドライ化と誰でもトイレの設置、屋上の防水、照明の LED 化、バリアフリー対策では点字サイン、安全対策では防犯カメラが設置されていることを確認した。エレベーターについては油圧式からロープ式に変更したことで機械室を倉庫へ転用できた。工事のコンセプトは、障害の特性に配慮し、部屋の配置等を変更せず、明るい色を基調とした。利用者等から、「明るくなった」「広く感じられる」等の声が聞かれた。

利用者状況は、就労継続支援 B 型 34 人が通所している。来年のカレンダーの包装作業に励まれており、その梱包された出荷物を出し入れする開口部も床が補強され、利便性が向上したことを確認した。障害の特性や利用者の高齢化に伴うシャワーの設置については、場所の確保ができず課題として残った。

今月 27 日に開催される「一歩いっぽ祭り」では、地域との共生が図られ、成功を祈願するとともに、今後も利用者や地域に愛される福祉活動の拠点としていただきたいと要望する。

２　ちいさいおうち小石川

当該施設は、０歳児６名、１歳児６名、２歳児７名計19名が在籍する小規模保育事業A型として一般社団法人まちの LDKが運営、平成29年9月1日に開設した小規模保育施設である。鉄筋コンクリート造、地上５階建の１階部分、保育所専有面積約119 ㎡。職員体制については、園長、保育士８名、調理師・栄養士２名のほか、保育補助が多数おり、職員が充足していることから、きめ細やかな保育が最大の特徴である。

入退園はICTで管理しており、災害対策では、職員の防災ヘルメットや園児の防災頭巾を設置していることを確認した。オムツの持ち帰りも廃止され、衛生面や保護者の負担軽減につながっている。お昼寝については目視をしているが、乳幼児突然死を防ぐベビーセンサーを要望する。この日は保育参観が行われており、保護者が子どもや職員、園の様子を知る機会を柔軟に設けていることも確認した。

本区の待機児童解消にスピード感を持って取り組んでいただいた結果、小規模保育園は現在８園となった。課題である３歳児以降の転園先が確保されることについては、今後も関係機関と連携し、取り組んでいただくことを要望する。

第 ２ 班

１　にじのいるか保育園千石第二

「にじのいるか保育園千石第二」は住宅地の中に開設が予定されていたこともあり、建設前から様々な課題を近隣との間に抱えていたが、平成30年４月１日に791㎡の敷地を備えて開設された。

近隣町会との定期的な意見交換が継続されたことで地域の理解を得ることができ、園庭も十分な広さが確保された。隣地との境界には視線を遮ったアクリルのパーテーションが建てられ、二重窓の防音対策もきちんとされていることが確認された。

また、施設内の至るところに安全対策の工夫もされていた。通常の遊びや運動の保育内容以外にも小１ギャップを考えた体験型プログラムが取り入れられたり、知育遊び等は楽しくできる工夫がされており、保護者にも安心感を与えている。

また、フロアの一角に読書スペースが確保されており、絵本が手の届くところにある。今後貸し出しも検討されており、子どもが本を借りることで保育園での生活の延長線にしっかりと家庭が繋がり、本がその役目を大いに果たすことを期待する。また、保育体制強化事業等を活用することで、人員体制をより充実させることを望む。

２　ふる里学舎本郷

障害者の方々に就労の場を提供するとともに、生産活動やその他の活動の機会を提供することで、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う就労継続支援事業所として「ふる里学舎本郷」は平成 29 年５月１日に開設された。

定員は 40 名。現在の利用者は 11 名、年間の平均利用率は 24%となっているが、小石川福祉作業所が改修工事を行った際に 33 名の一時利用の受け入れを行っていたこともあり、その後の利用者の異動のため現在の数字となっている。

現在７名の職員で運営がなされている。封入や折込みといった受注作業とパンの製造を主な活動内容としている。文京区の子ども宅食事業の食材の仕分け作業も請け負っている。受注作業は月に 10 万円程度、パン製造は月に 50～70 万円程度の売上げがある。繁忙期には月に 100 万円の売上げをパン製造であげることもあり、販路の拡大について区としても協力するべきであろう。工賃として月に１万 5,000 円～２万円程度が利用者に支払われることになる。

仕事以外の支援も充実を図っており、定期的なレクリエーションの実施や旅行などの行事も計画されている。地域コミュニティと密接なコミュニケーションをとることで、良好な関係を築く運営努力も継続されていることが確認できた。

第 ３ 班

１　介護老人保健施設　音羽えびすの郷

当該施設は介護老人保健施設として平成30年３月１日に開設した。「口からおいしく食べることを支援する施設」をスローガンに、施設内に口腔ケア室とされる歯科部門を併設し、口腔ケアの大切さや、食の大切さを感じることができた。

施設の基本ケアは一日の水分目安1,500㎖以上、歩行を促す、排便をトイレで、食事を楽しむ、パワーリハビリ、そしてレクリエーションの充実等があり、更に具体的対策として取り組まれている。

館内はゆとりがある広いスペースを確保しており、リハビリ施設、娯楽施設、トイレ、風呂などにきめ細かい配慮を感じた。

運営目標の一つとして在宅復帰があるが、現実的には在宅と施設に入ることが繰り返される、循環利用を想定してレクリエーションの充実を掲げ、才能あふれるボランティアスタッフによる、日常の楽しみが広がる支援をしている。また、介護レベルに合わせたリハビリを行っており、そのための設備の充実が視察により感じられた。

なお、施設の入り口が駐車場側にあるため、安全性の確保と道路から施設へのアプローチにはバリアフリー化が望まれる。

２　江戸川公園内公衆便所・江戸川公園便所

近隣区民の要望を取り入れて改修工事を行った江戸川公園は平成30年４月１日に開園した。要望では、公園を広く使いたいので公園中央にあったトイレを移設すること、近隣に観光施設が充実しているので観光案内板をわかりやすい場所に掲示できるようにすること及び待ち合わせに使えるような見通しの確保や防災公園としての機能充実などが求められた。これらの要望を受け、トイレの位置を変更し、中央にイベント広場を設置した。

また、観光案内の充実を図り、周辺の案内看板を設置するとともに待ち合わせ場所等の機能充実を図るための遊び場や多様なベンチを設置した。防災施設の充実としてベンチはかまどベンチとして活用でき、マンホール活用の防災トイレは発電機を使用することにより神田川の水を水源として活用できるよう工夫し、障害者用トイレも備えた画期的なものであり、公園全体のバリアフリー化は水飲み場にも配慮しており施設の充実を視察できた。

これらの改修費用には、国の社会資本整備総合交付金、東京都の区市町村観光インフラ整備支援補助金、東京都の公園内運動器具整備事業補助金、東京都の地域福祉推進区市町村包括補助事業補助金など各種補助金を活用していることを評価する。

最後に、男子トイレの目隠しについて、景観に配慮した早期対応を求めたい。